



東京学芸大学附属高等学校 第 17 回 公開教育研究大会のご案内

皆様方には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、第 17 回公開教育研究大会を以下のとおり開催いたします。是非、多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、ご意見、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 主題

コンピテンシー・ベースのカリキュラム開発(3) -カリキュラム・マネジメントの前にすべきこと-

次期学習指導要領において、“資質・能力の育成”という観点は、高校の授業場面にとどまらず、教育課程、高大接続改革など、さまざまな場面で大きな影響を与えています。本校では、平成 28 年度より継続的に資質・能力を育成する授業とそれを評価するためのパフォーマンス課題の開発に注力してまいりました。ただ、その中で“どのような生徒を育てるのか”というゴールイメージ共有が課題となっています。そこで本年度は、資質・能力を育成する授業・評価づくりに加え、本校内でのゴールイメージの共有に取り組んでおります。この取り組みは今後、カリキュラム・マネジメントを充実させるための、重要な土台になるものと考えております。

2. 日時・内容

平成 30 年 11 月 23 日 (金)

9:00 9:30~9:50 10:00 ~ 10:50 11:10 ~ 12:00 12:45 ~ 14:15 14:30 ~ 16:00

受付	全体会	休憩	公開授業Ⅰ	休憩	公開授業Ⅱ	昼休み	研究協議会	休憩	シンポジウム
----	-----	----	-------	----	-------	-----	-------	----	--------

公開授業Ⅰ

教科	科目	授業者	授 業 タ イ ト ル	授 業 概 要
国語	国語総合	浅田 孝紀	文芸評論を比較する	1限は新カリを睨み、同一作品に関する2つの文芸評論を比較し、両者の内容をどう評価するかを考える。2限はこの授業に関し協力者と一緒に「対話型授業検討会」を実施する。参会者の皆様にはまずここまでを参観してほしい。
地理 歴史	日本史A	安井 崇	帝国主義などの概念を共有した 日本史A・世界史Aの授業	歴史総合の設置を念頭に、帝国主義などの共通の概念をもとに日本史A・世界史Aの授業を構想・実践することにより、知識の蓄積にとどまらない「視点」や「方法」を意識した歴史学習のイメージを生徒に伝えることをめざす。
公民	現代社会	山北 俊太郎	イスラーム検定をつくろう	イスラームについて、地理・歴史・倫理で教えられる断片的な知識を生徒はどのように統合していくのか。ムスリムが給食のハラール対応を要求した静岡県の事例を参考に、実際にムスリムの方にインタビューしながら、イスラームを理解することについて生徒とともに探っていく。
理科	地学基礎	田中 義洋	自然環境の変化をとらえる	これまで、地球の形と大きさ、地球内部の層構造、岩石と鉱物、地層の形成と地質構造、古生物の変遷などを学習している。これまでの学習内容を活用して地球環境の変化を生徒がとらえることを主眼とした授業を行う。
保健 体育	体育	福元 康貴	持久走の導入 ～自分に合った走りを探ろう～	技術要素に乏しく、長時間の苦しみと引き換えに達成感だけを味わわせてくれる長距離走。今ひとつ積極的な取り組み姿勢を得られないが、今回導入時のフォームを中心とした自らの走りを自分なりに実践・検証し、独自の技能で持久走授業に取り組ませたい。
芸術	音楽Ⅰ	居城 勝彦	歌唱表現を深める	演奏表現を深めるためには楽曲理解が欠かせない。今回は楽曲の成立背景特に作詞者への理解を通して歌詞に綴られた言葉の意味を考え歌唱表現を深めることを狙い、司書によるブックトークを取り入れる。
外国語	英語表現Ⅰ	光田 怜太郎	音声を中心にした英文法定着活動	1つのパラグラフをいくつかの文に分けて班にあたえ、班員一人一人が自分の担当した文を覚え、その順番を英語で議論するという活動(ストリップストーリー)を通して、実際に英語を用いる過程で文法を定着させる活動を行います。

公開授業Ⅱ

教科	科目	授業者	授 業 タ イ ト ル	授 業 概 要
国語	国語総合	浅田 孝紀	文芸評論を比較する	(公開授業Ⅰより継続)
地理 歴史	世界史A	小太刀 知佐	帝国主義などの概念を共有した 日本史A・世界史Aの授業	歴史総合の設置を念頭に、帝国主義などの共通の概念をもとに日本史A・世界史Aの授業を構想・実践することにより、知識の蓄積にとどまらない「視点」や「方法」を意識した歴史学習のイメージを生徒に伝えることをめざす。
数学	数学Ⅰ	大谷 晋	平均値が高いと本当に優れているの？	2つの集団で平均値が異なる時、平均値の高い集団は、もう一方の集団と比べて本当に優れているといえるのだろうか？平均値の違いは、たまたま起こったのではないだろうか？身近な現象で考察していきたい。
理科	物理基礎	市原 光太郎	幾何光学の基礎	物理基礎には光の分野は無いのだが、本校の授業の都合上、物理基礎(2年全員必修)の授業内で扱っている。簡易な実験を元に、幾何光学のベースとなる「光はどのように進むか」に根拠を持って答えられるようにする。
理科	化学基礎	成川 和久	金属のイオン化傾向	金属イオンが単体となり析出すると同時に金属の単体が陽イオンになる金属樹の実験を通して金属の水溶液中で陽イオンへのなりやすさ(イオン化傾向)を学習した酸化還元と関連づけて学ぶ。また、金属単体のイオン化傾向を比較する実験も行う。
保健 体育	体育	福元 康貴	持久走の導入 ～自分に合った走りを探ろう～	(公開授業Ⅰより継続)
芸術	美術Ⅰ	神田 春菜	日本美術の文化について理解を深める	日本美術の表現の特徴や様式について理解を深めることを目標とします。屏風や障子、掛け軸などの作品の鑑賞と比較や、国語総合(古典)で学習する「伊勢物語」を主題とした絵巻物を制作と鑑賞を通して学習します。
芸術	音楽Ⅰ	居城 勝彦	歌唱表現を深める	(公開授業Ⅰより継続)
芸術	書道Ⅰ	荒井 一浩	書の美を捉えて書こう	楷書および行書の古典から各自の関心に基づいて取り組む課題を選定し、その書風を捉えて臨書することを目指す。個人で考え、グループで検討し、お互いに学び合う中で新たな発見をするように働きかけを行いたい。
家庭科	家庭基礎	阿部 睦子	衣生活から社会の持続性を考えよう	SDGsなど持続可能な社会の構築が求められる中で、衣生活を送る上で発信できる事柄を考える。衣服の生産に目を向けた消費生活の重要性など視点を広く持たせることも考えられる。
外国語	コミュニケーション 英語Ⅰ	加藤 淳	暗唱で終わらせないリテリングの指導	リテリングは生徒にとって難度が高く、多くの場合本文を丸暗記しそれを再生するという形で終わることが多い。本授業ではいくつかのポイントを提示することで、この課題にどう迫ることができているかを検討する。

研究協議会

教科	研 究 テ ー マ	提案者	助言講師	所 属
国語	「対話型授業検討会」について —新教育課程を見据え、従来型の協議会とは異なる授業検討のあり方を考える—	浅田 孝紀	渡辺 貴裕	東京学芸大学教職大学院教育実践創成講座准教授
地理 歴史	歴史学習における「概念」と「思考力」	安井 崇 小太刀 知佐	大森 淳子	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官
公民	ムスリム理解を促す地歴公民科の在り方	山北 俊太郎	荒井 正剛 小林 春夫	東京学芸大学人文科学講座教授 東京学芸大学人文科学講座教授

数学	生徒の数学的活動を促す統計教育のあり方	数学科	高橋 弘	東京学芸大学自然科学系准教授
理科	目指すべき理科の教育課程	理 科	鶴岡 義彦	元千葉大学教育学部理科教育講座教授
芸術	芸術科からみたカリキュラムマネジメント	芸術科	相田 隆司 中地 雅之 加藤 泰弘	東京学芸大学美術書道講座教授 東京学芸大学音楽演劇講座教授 東京学芸大学美術書道講座教授
家庭科	持続可能な社会を見据えた被服学習	阿部 睦子	望月 一枝	日本女子大学客員研究員
保健 体育	持久走の指導と評価	福元 康貴	山本 浩二	文教大学教育学部准教授
外国語 (英語)	音声を通じた文法指導	光田 怜太郎 加藤 淳	金谷 憲	東京学芸大学英語科教育学名誉教授

シンポジウム

テーマ 「BYODの可能性ーカリキュラム・授業づくりの観点からー」

発表者 高橋 純 先生 (東京学芸大学教育学講座准教授)

次期学習指導要領の改訂において注目されている「情報活用能力の育成」。AIなどの技術発展が進む現代社会において、情報活用能力の重要性は高まるばかりです。本校でも再来年度からの導入を検討しているBYOD (Bring Your Own Device; 1人1台PC)。カリキュラムづくり・授業づくりの観点から、情報活用能力の育成について、高橋先生をお招きして議論を深めたいと思います。

3. 後援

東京都教育委員会

4. 参加申込

参加ご希望の方は本校 HP(<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>)にて11月22日までにお申し込みください。なお、お弁当の申し込みは11月19日までとさせていただきます。

5. 本校へのアクセス

電車 ・東急東横線「学芸大学」駅下車 徒歩15分
 ・東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車 徒歩20分

バス (東急バス)

- ・【渋谷駅】南口「野沢龍雲寺循環」、「東京医療センター」行き
- ・【目黒駅】西口「三軒茶屋」行き
- ・【三軒茶屋駅】「目黒駅」行き

※いずれも「学芸大学附属高校」下車 徒歩1分

6. その他

参加費は無料 (資料により実費をいただく場合もあります)。

なお、お弁当を注文された方は、当日、1000円を申し受けます。

問い合わせは、下記までお願い致します。

東京学芸大学附属高等学校

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5

TEL : 03-3421-5151 (代) FAX : 03-3421-5152

E-mail : gaku-ken@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp

担当 : 研究部 齋藤 洋輔

案内図

- 徒歩順路
- バス順路

